

血液製剤に関する報告事項について (目次)

○ 輸血用血液製剤で HIV 感染が疑われた事例について	1
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 16 年 3 月 22 日報告)について	3
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 16 年 11 月 26 日報告)について	5
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 17 年 1 月 12 日報告)について	7
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 17 年 2 月 4 日報告)について	9
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 17 年 6 月 23 日報告)について	11
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 18 年 4 月 7 日報告)について	13
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 18 年 6 月 5 日報告)について	15
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 19 年 2 月 20 日報告)について	17
○ 輸血用血液製剤で HCV(C 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 18 年 2 月 15 日報告)について	19
○ 輸血用血液製剤で HCV(C 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 19 年 10 月 9 日報告)について	21
○ 輸血用血液製剤で細菌感染が疑われた事例(平成 19 年 4 月 9 日報告)について	23

- 平成 19 年度感染症報告事例のまとめ
(平成 19 年 6 月報告分以降)について 25
- 輸血後 HEV 感染の予防対策(問診・NAT の状況) 37

< 参 考 >

- ・ 血液製剤に関する報告事項について
(平成 19 年 10 月 12 日付け血液対策課事務連絡) 41
- ・ 血液製剤に関する報告事項について(回答)
(平成 19 年 10 月 18 日付け日本赤十字社提出資料) 43
- ・ (参考)安全対策業務の流れ 49

輸血用血液製剤で HIV 感染が疑われる事例について

1. 経緯等

平成15年9月5日、後天性免疫不全症候群発生届にて感染経路として輸血が考えられる HIV 感染者が報告されたとの情報を入手。同日、当該報告医が、同事例について副作用感染症報告を日本赤十字社に提出、これを受けて同社による調査が開始され、その結果が、平成15年10月30日に開催された第95回エイズ動向委員会（委員長：吉倉廣国立感染症研究所長）に報告された。

2. 事 例

50歳代の男性で平成15年の3月～7月に赤血球製剤（MAP16単位）の輸血を受けた後、実施した血液検査においてHIV感染を確認（WB検査陽性）。報告医は感染経路として輸血を疑っている。

3. 事実関係

1) 輸血された輸血用血液製剤について

- ・当該感染者には、8人の供血者から採血された赤血球製剤（MAP）が8本（保管検体の個別NATはいずれも陰性）投与された。

2) 他の血液製剤への影響について

- ・投与された赤血球製剤の原料血液からは、他に新鮮凍結血漿と血漿分画製剤用の原料血漿が製造されていた。
- ・原料血漿については流通を停止。
- ・新鮮凍結血漿については3本が製造されており、既に他の医療機関で3名の患者に投与されていた。（他に行方不明の製剤はない。）

3) 新鮮凍結血漿の投与を受けた3名について

- ・1名は既に原疾患により死亡
- ・残り2名については輸血後（約6ヵ月後）の抗体検査で陰性。

4. エイズ動向委員会での専門家からの意見

-記者会見では、「HIVの感染が輸血用血液製剤によるか追求すれば、患者のプライバシーに関わりうるケースである。」との発言があった。

5. エイズ動向委員会後の事実経過

- 1) 健康状態の確認を行っていた2名の受血者は、いずれも感染していなかったことが確認された。
- 2) 供血者の次回献血での検査については、平成18年7月12日現在、8名中6名が来訪し、感染していなかったことが確認された（平成19年10月18日現在、残る2名のその後来所なし）。

6. 今後の対応

当該感染者のプライバシーの最大限尊重を徹底しつつ、引き続き調査を継続するよう指導してまいりたい。

輸血用血液製剤で HBV (B 型肝炎ウイルス) 感染が疑われた事例 (3月22日報告) について

1 経緯

平成16年3月22日及び30日、日本赤十字社から輸血(人血小板濃厚液及び人赤血球濃厚液)による HBV 感染の疑い事例の報告があった。

2 事例

70歳代の女性。原疾患は急性骨髄性白血病。平成15年10月5日～平成16年1月22日の間に、輸血を計18回(人血小板濃厚液10単位を11袋分並びに人赤血球濃厚液1単位を3袋分及び2単位を4袋分)受ける。

輸血前の血液検査(平成15年10月3日)では HBs 抗原及び抗体検査(B型肝炎ウイルスの検査)はいずれも陰性であったが、輸血後の平成16年3月19日に実施した HBs 抗原検査は陽性、肝機能検査(GOT、GPT 及び LDH)は高値を示す。

患者は4月26日に死亡したことを確認済み。死因は呼吸不全及び腎不全。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- 当該患者には、37人の供血者から採血された血小板製剤及び赤血球製剤を輸血。
- 当該製剤に関わる血漿のうち、4人分由来の5本が新鮮凍結血漿(FFP)として医療機関へ供給された(残りは原料血漿)。

(2) 37人の供血者について

37人の供血者のうち、32人の献血者がその後献血しており、検査は陰性であった。(平成19年10月18日現在、残る5人のその後の来所なし)。

(3) 供血者の個別 NAT の試験結果

供血者37人の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、全て陰性であった。

(4) 患者の保管検体の個別 NAT 及び HBs 抗原の試験結果

平成16年3月19日(輸血後)の医療機関に保管されていた患者検体は個別 NAT 及び HBs 抗原検査はいずれも陽性(輸血前は保管されていなかった)。

(5) 輸血と HBV 感染との関連

現在のところ、輸血と HBV 感染(当該事例の死亡原因を含む)の因果関係については不明。

4 今後の対応

(1) 当該事例への対応

- 医療機関へ供給した5本の新鮮凍結血漿に関して情報提供した医療機関における受血者(患者)5名の健康状態を確認した結果、輸血後陰性が2名、不明が3名であった。
- 37人の供血者のうち、その後献血に来ていない5人のフォローを行う。

(2) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （11月26日報告）について

1. 経緯

平成16年11月26日、日本赤十字社から輸血（新鮮凍結血漿）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2. 事例

70歳代の男性。原疾患は消化器腫瘍（転移性肝癌を含む。）。平成16年3月12日から15日まで4日間に亘り、プロトロンビン時間延長のため、輸血を（新鮮凍結血漿合計36単位23本）受ける。

輸血前の血液検査（2月28日）では、HBs抗原検査陰性であったが、平成16年10月4日に肝機能検査値異常がみとめられ、黄疸を呈したため、10月8日に検査したところ、HBs抗原陽性、HBs抗体陰性が確認され、急性B型肝炎と診断された。11月17日に右大量胸水を呈した後、呼吸状態悪化により死亡した。また、平成15年5月の手術の際にも新鮮凍結血漿2単位22本、赤血球MAP2単位3本の輸血を受けている。

3. 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には平成16年3月の輸血時に23人の供血者から採血された新鮮凍結血漿を輸血。また、平成15年5月に25人の供血者から採血された新鮮凍結血漿及び赤血球MAPを輸血。
- ② 平成16年3月輸血の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は2本が確保、10本は使用済み、新鮮凍結血漿10本及び赤血球MAP23本は全て医療機関に提供済み。
- ③ 平成15年5月輸血の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿21本は使用済み、新鮮凍結血漿6本及び赤血球MAP22本は全て医療機関に提供済み。

(2) 48人の供血者について

- ① 平成16年3月の輸血時の供血者23人のうち、18人が再献血し、再献血時の検査結果は16人がHBV関連検査陰性、1人はHBc抗体はEIA法陽性、HI法陰性、HBs抗体（EIA法）陽性（NAT及びHBs抗原陰性）であった。なお、この1人の献血時のHBc抗体はEIA法で陽性、HBs抗体も陽性であった（平成19年10月18日現在、残る5人のその後の来所なし）。
- ② 平成15年5月の輸血時の供血者25人のうち、21人が再献血し、再献血時の検査結果はHBV関連検査陰性であった（平成19年10月18日現在、残る4人のその後の来所なし）。

(3) 供血者個別NATの試験結果

- ① 平成16年3月の輸血時の供血者23人の献血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、すべて陰性であった。
- ② 平成15年3月の輸血時の供血者25人の献血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、すべて陰性であった。

4. 今後の対応

- (1) 供血者48人のうち、9人の再献血・検査に係るフォローを行う。

(2) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

(3) その他

- ① 受血者の輸血後検体(10月12日)を確保し、再検査したところ、HBs 抗原 (+)、HBs 抗体 (-)、HBc 抗体 (+)、HBV-DNA (+)であった。
- ② 受血者の肝臓については、平成15年に施術され、平成16年10月の腹部CTでは再発が認められておらず、肝臓と肝障害との因果関係はないものと考えられる。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （1月12日報告）について

1 経緯

平成17年1月12日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液、血小板濃厚液）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の男性。原疾患は血液疾患。平成16年1月8日から5月25日まで12回にわたり、輸血（赤血球濃厚液合計26単位、血小板濃厚液合計30単位）を受ける。

輸血前の血液検査（1月8日）では、HBs抗原検査陰性であったが、平成16年11月18日に食欲不振のため、検査したところ、HBs抗原陽性が確認され、同22日の採血の検体で、HBs抗原（+）、HBs抗体（-）、HBc抗体（+）、HBV-DNAのNATの（+）も確認された。平成17年1月8日劇症肝炎を呈した後、肝不全により死亡した。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には16人の供血者から採血された赤血球濃厚液及び血小板濃厚液を輸血。
- ② 輸血の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は3本が確保、12本は使用済み、新鮮凍結血漿12本は全て医療機関に提供済み。

(2) 16人の供血者について

- ① 輸血時の供血者16人のうち、12人が再献血し、再献血時の検査結果はHBV関連検査（-）であった。（平成19年10月18日現在、残る4人のその後の来所なし）
- ② 供血時保管検体の2人の陽性血から、原料血漿2本、新鮮凍結血漿が2本製造され、原料血漿は使用済み、新鮮凍結血漿も使用済みであった。当該新鮮凍結血漿の受血者2名のうち、1人は輸血後11日目で死亡、もう1人はHBs抗原検査（-）であった。

(3) 供血者個別NATの試験結果

- ① 輸血時の供血者16人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、2人がNAT（+）であった。
- ② 当該2人は、共に、複数回再献血を行っているが、再献血時にHBV関連検査（-）であり、HBc抗体及びHBc抗体-IgMは（-）、個別NATも共に（-）であった。
- ③ 当該2名の供血時の保管検体のウイルス解析の結果、共に、ゲノタイプCサブタイプadrと推定、また、497番目と498番目の間に12塩基が挿入した極めて特殊な変異株と挿入のない野生株が存在していた。これらは、受血者の血液も同様に挿入のある変異株と挿入のない野生株を有しており、三者のウイルスのシーケンスは完全に一致した。

4 今後の対応

(1) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

(2) 輸血時の供血者16人のうち、再献血に訪れていない4人について引き続き、調査

する。

(3) その他

- ① 供血時保管検体でNAT (+) となった2名は、その後の再献血の検査がすべて (-) であり、HBc抗体も (-) であり、感染歴があった可能性は低い。
- ② また、発見されたウイルスのシーケンスは稀なものであり、これらが偶然に保管検体2本一致することは考えにくい。
- ③ 当該供血者の血液から同時に製造された新鮮凍結血漿の受血者で感染は発生していない。
- ④ 以上のことから、NAT時に受血者血液が供血者サンプルに混入する等の測定上の誤差が発生した可能性も考えられる。

輸血用血液製剤で HBV (B 型肝炎ウイルス) 感染が疑われた事例 (2月4日報告) について

1 経緯

平成17年2月4日、日本赤十字社から輸血(人赤血球濃厚液)によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の男性。原疾患は悪性腫瘍。平成16年9月8日から11月24日まで、貧血のため、輸血を計9回(人赤血球濃厚液合計14単位)を受ける。

輸血前の血液検査(平成16年8月3日及び9月8日)では、HBs抗原検査陰性であったが(9月8日はHBs抗体及びHBc抗体検査も陰性)、平成16年11月24日の輸血時にHBs抗原検査陽性が確認された(HBs抗体及びHBc抗体検査は陰性)。

平成17年1月26日の輸血施行時に、HBs抗原検査陽性に加え、HBc抗体検査が陽性となり(HBs抗体検査は陰性)、1月31日には黄疸が出現するとともに、肝機能検査で高値を示し、2月2日に劇症肝炎により死亡した。

なお、当該患者の輸血前血液(平成16年9月8日)の保管検体のHBV-NATは陰性で、輸血後血液(平成16年10月21日)はHBV-NATは陽性であった。輸血後血液から検出されたHBVは、ジェノタイプB、サブタイプadw、CP/Pre C領域はe抗原が産生できない変異株であった。HBV-DNA量は 2.9×10^{10} Copies/mLであった。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には9人の供血者から採血された赤血球濃厚液を輸血。
- ② 9人の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿7本及び新鮮凍結血漿2本を確保済み。残りの新鮮凍結血漿2本は医療機関へ供給済みであるが、医療機関への情報提供は実施済み。

(2) 9人の供血者について

- ① 供血者9人のうち、当該患者の平成16年10月21日採血の輸血後血液がHBV-NAT陽性であったことから、10月21日輸血以前(9月8日～9月10日)の輸血に係る4人の供血者に対して供血者に呼び出しの協力を依頼し、3人は再献血又は再採血済み。
- ② 10月21日輸血以降の供血者について、2人がその後再採血検査済み。
- ③ ①及び②の計5名については、HBV個別NATを含めHBV関連検査は陰性だった。ただし、①の3名のうち、1名はHBc抗体がEIA法のみ陽性、HI法は陰性だった。(平成19年10月18日現在、残る1名のその後の来所なし。)

(3) 供血者個別NATの試験結果

輸血時の供血者9人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、すべて陰性であった。

4 今後の対応

(1) 9月8日～9月10日輸血の4人の供血者のうち、残る供血者1人の再献血・検査に係るフォローを行う(再採血の依頼中)。

(2) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

(3) その他

悪性腫瘍の治療にプラチナ系抗癌剤等（8月18日）及びテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム（11月10日）を使用しており、薬剤性の劇症肝炎の疑いも完全には否定できない。

輸血用血液製剤で HBV (B 型肝炎ウイルス) 感染が疑われた事例 (6 月 23 日報告) について

1 経緯

平成 17 年 6 月 23 日、日本赤十字社から輸血 (赤血球濃厚液及び新鮮凍結血漿) による HBV 感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

50 歳代の男性。原疾患は消化管腫瘍。平成 17 年 2 月 3 日に手術施行のため、赤血球濃厚液合計 8 単位、新鮮凍結血漿合計 30 単位を受ける。

輸血前の血液検査 (平成 16 年 12 月) では HBs 抗原検査陰性、輸血後の平成 17 年 4 月 6 日でも HBs 抗原検査陰性であったが、退院時の平成 17 年 4 月 21 日に HBs 抗原検査陽性が確認された。

その後、平成 17 年 6 月 13 日に発熱、全身倦怠感等出現し、肝機能値が高値を示し、6 月 16 日再入院、6 月 20 日には、HBs 抗体、HBc 抗体、HBe 抗原、HBe 抗体のいずれも陽性が確認された。また、同日の HBc の IgM 抗体も陽性であり、劇症肝炎と診断される。

患者は、7 月 3 日に B 型劇症肝炎にて死亡した。

患者の検体の HBV の解析結果は、ジェノタイプ C、サブタイプ a d r であり、CP/Pre Core 領域の塩基配列の解析から PreC 部位には変異はなく、CP (Core Promoter) 部位に変異がある CP 変異、PreC 野生株であった。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には 20 人の供血者から採血された赤血球濃厚液等を輸血。
- ② 20 人の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は 17 本のうち 10 本が確保、新鮮凍結血漿 6 本のうち 3 本は確保済み。15 本の赤血球濃厚液はすべて医療機関へ供給済み。医療機関への情報提供は実施済み。

(2) 20 人の供血者について

供血者 20 人のうち、15 人が再採血・献血に来場 (HBV 関連検査は陰性)。(平成 19 年 10 月 18 日現在、残る 5 名の来訪なし。)

(3) 供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者 20 人の供血時の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、すべて陰性であった。

4 今後の対応

- (1) 供血者 5 人の再献血・検査に係るフォローを行う (再採血の依頼中)。
- (2) 血液の安全対策の推進
「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた 事例（4月7日報告）について

1. 経緯

平成18年4月7日、日本赤十字社から輸血（濃厚血小板、赤血球濃厚液）によるHBV感染疑いの症例の報告があったとの報告が、日本赤十字社からあった。

2. 事例

患者は、40代の男性で、原疾患は血液腫瘍。平成16年7月から平成17年2月に（濃厚血小板計30単位、赤血球濃厚液計48単位）、平成17年3月から5月に輸血（濃厚血小板計130単位、赤血球濃厚液計18単位）を受ける。

最初の輸血から8ヶ月後の平成17年2月22日にはHBs抗原、HBs抗体、HBc抗体全て陰性だったが、平成18年3月に肝不全となり、4月3日にHBs抗原、HBc抗体についても陽転が確認された。輸血後の平成17年5月23日の保管検体において、HBV-NATは陰性であったが、6月8日の保管検体において、HBV-NATは陽性であった。なお、HCV抗体は輸血前から陽性であった。

その後主治医は、亜急性劇症肝炎と診断。（4月7日 ALT67IU/mL, T-Bil13.57mg/dL, PT-INR2.30）患者は5月19日に肝不全により死亡。

3. 感染についての状況

(1) 輸血された血液製剤について

① 当該患者に投与された血液製剤の供血者数は31人（H16年7月～H17年2月）及び22人（H17年3月～5月）

※被疑製剤の対象をH16年7月まで拡大して調査

② 当該供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿51本のうち44本使用済みで7本確保済み。新鮮凍結血漿14本はすべて医療機関へ供給済み。

(2) 供血者個別 NAT

供血者個別 NATは53人分全て陰性。

(3) 供血者に関する情報

① 供血者31人のうち、22人が献血又は事後採血に再来し、21人はHBV関連検査陰性。1名はHBs抗体のみ陽性（平成19年10月18日現在、残る9名の来訪なし）。

② 供血者22人のうち、22人すべてが献血又は事後採血に再来し、20人はHBV関連検査陰性。2名はHBc抗体及びHBs抗体陽性。

(4) その他

平成17年4月8日、骨髄バンクからの同種骨髄移植を施行。ドナーはHBsAg(-)、HBsAb(-)、HBcAb(-)であった。

4. 今後の対応

(1) 供血者9人の再献血・検査に係るフォローを行う

(2) 「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤で HBV (B 型肝炎ウイルス) 感染が疑われた事例 (6月5日報告) について

1 経緯

平成 18 年 6 月 5 日、日本赤十字社から輸血 (赤血球濃厚液及び新鮮凍結血漿) による HBV 感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

80 歳代の男性。原疾患は消化器疾患。平成 17 年 10 月 22 日から 11 月 29 日までの間に赤血球濃厚液合計 18 単位、新鮮凍結血漿合計 36 単位を受ける。

輸血前の血液検査 (平成 17 年 8 月 31 日) では HBs 抗原検査陰性、AST 16 及び ALT 12 であった。輸血後の平成 18 年 5 月 2 日に、AST、ALT の上昇がみられ、同月 19 日に HBs 抗原検査陽性であり、AST 683、ALT 693 であった。同患者については、上記の他、次の検体が医療機関に保管されており、それらを検査した結果は次のとおりであった。

輸血前 H17.10.22 HBV-DNA 陰性

輸血後 H17.11.13 HBs 抗原陰性、HBs 抗体陰性、HBc 抗体陰性

輸血後 H17.11.24 HBs 抗原陰性、HBs 抗体 EIA 法陽性/PHA 法陰性、HBc 抗体陰性

輸血後 H17.11.27 HBV-DNA 陰性

輸血後 H18.06.02 HBs 抗原陽性、HBs 抗体陰性、HBc 抗体陽性、HBV-DNA 陽性

その後、平成 18 年 6 月 12 日に死亡。急性肝炎から劇症肝炎に至り、肝不全による死亡と考えるとの担当医の見解である。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には 29 人の供血者から採血された赤血球濃厚液等を輸血。
- ② 29 人の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は 27 本のうち 11 本が確保、16 本が使用済み。新鮮凍結血漿 8 本のうち 6 本は確保済み、2 本は医療機関へ供給済み。18 本の赤血球濃厚液はすべて医療機関へ供給済み。

(2) 29 人の供血者について

供血者 29 人のうち、27 人が再採血・献血に来場 (27 名の HBV-DNA は全て陰性、そのうち 2 名は HBs 抗体及び HBc 抗体陽性、1 名は HBs 抗体のみ陽性、残る 24 名は HBV 関連検査陰性)。(平成 19 年 10 月 18 日現在、残る 2 名の来訪なし。)

(3) 供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者 29 人の供血時の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、すべて陰性であった。

4 今後の対応

- (1) 供血者 2 人の再献血・検査に係るフォローを行う (再採血の依頼中)。
- (2) 血液の安全対策の推進
「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤で HBV (B 型肝炎ウイルス) 感染が疑われた事例 (2月20日報告) について

1 経緯

平成19年2月20日、日本赤十字社から輸血(赤血球濃厚液)によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の男性。原疾患は消化器腫瘍。平成18年8月3日に、輸血(赤血球濃厚液合計4単位3本)を受ける。

輸血前の血液検査(平成18年7月11日)ではHBs抗原検査陰性であったが、輸血後の平成18年9月26日に、HBs抗原検査陽性となった。10月24日の悪心、嘔吐、腹痛にて受診、AST1364、ALT1306、肝不全を認める。10月25日に多臓器不全により死亡。感染経路が不明であるが、輸血によるHBVの感染が否定できないとの担当医の見解である。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ①当該患者には3人の供血者から採血された赤血球濃厚液を輸血。
- ②当該製剤と同一供血者から製造された3本の原料血漿は全て確保済み。

(2) 3人の供血者について

3人の供血者のうち、2名が再採血・献血に来場(2名のHBV関連検査は全て陰性)。

(3) 供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者3人の供血時の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、全て陰性であった。

4 今後の対応

- (1) 供血者1人の再献血・検査にかかるフォローを行う。
- (2) 血液の安全対策の推進
「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でC型肝炎が疑われた事例 (2月15報告) について

1 経緯等

平成18年2月15日、日本赤十字社から輸血(赤血球濃厚液)によるHCV感染の疑いの症例の報告があった。その後、当該症例の死亡が確認され、日本赤十字社から3月8日に追加報告があったものである。

2 事例

70歳代の男性。原疾患は血液腫瘍。平成17年8月13日から平成18年1月30日までの間に、輸血(濃厚血小板液10単位47本、赤血球濃厚液2単位21本、新鮮凍結血漿5単位7本、同2単位4本、同1単位2本)を実施。患者は、2月19日に急性循環不全により死亡。患者の輸血前(8月12日)のHCV抗体検査は陰性であったが、本年1月30日にHCVコア抗原の陽性が確認され、2月14日のAST/ALTは67/192であった。

3 状況

(1) 輸血された輸血用製剤について

- ・ 当該患者には、81人の供血者から採血された赤血球製剤、血小板製剤及び新鮮凍結血漿を輸血。
- ・ 当該製剤と同一供血者から製造された70本の原料血漿のうち67本は確保・廃棄済み(3本は使用済み)。新鮮凍結血漿は、14本製造で11本確保済み(3本は医療機関供給済み)。赤血球製剤6本は医療機関供給済み。

(2) 検体検査の状況

- ・ 保管検体81本のHCV個別NATはすべて陰性。
- ・ 供血者81人中78人が献血に再来又は再採血し、HCV関連検査は陰性であった(平成19年10月18日現在、残る3人のその後の来訪なし)。

(3) 患者検体の調査

- ・ 輸血後の検体でHCV-RNA陽性が確認された。

(4) 担当医の見解

- ・ C型肝炎が死期を早めたと思われるが、輸血がC型肝炎の原因であるとの証明はされていないとのこと。

(5) 併用薬等

- ・ 当該患者は、輸血と同時期に乾燥アンチトロンビン、乾燥スルホ化グロブリン、人血清アルブミンを併用していた。

4 今後の対応

- (1) 今後、遡及調査ガイドラインの徹底を進める。
- (2) 再来していない供血者3人のフォローアップを引き続き行う。

輸血用血液製剤でC型肝炎が疑われた事例 (10月9日報告)について

1 経緯等

平成19年10月9日、日本赤十字社から輸血(人血小板濃厚液及び人赤血球濃厚液)によるHCV感染の疑いの症例の報告があった。その後、日本赤十字社から10月19日、11月7日に追加報告があったものである。

2 事例

50歳代の女性。原疾患は再生不良性貧血。平成19年6月20日から同年9月28日までの間に、輸血(人血小板濃厚液10単位32本、同20単位1本、人赤血球濃厚液2単位21本)を実施。

輸血前の血液検査(平成19年6月14日)ではHCV-RNA、HCVコア抗原及びHCV抗体検査はいずれも陰性であったが、輸血後の平成19年10月1日に実施したHCVコア抗原検査は陽性であった。肝機能検査は平成19年8月2日にAST/ALTはそれぞれ85/452に上昇したが、8月31日のAST/ALTは9/14まで減少した。

また、輸血期間中の平成19年8月28日の患者検体で実施したHCV-RNA検査は陽性であった。

平成19年10月1日の患者検体はHCV-RNA陽性であった。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ・ 当該患者には、54人の供血者から採血された赤血球製剤及び血小板製剤を輸血。
- ・ 当該製剤と同一供血者から製造された42本の原料血漿及び12本の新鮮凍結血漿はすべて確保済み。

(2) 検体検査の状況

- ・ 保管検体54本のうち、53本のHCV個別NATは全て陰性、1本のHCV個別NAT陽性。
- ・ 供血者54人中12人が献血に再来し、HCV関連検査は陰性(なお、保管検体HCV個別NAT陽性の献血者は、再来献血なし)。

(3) 患者検体の調査

- ・ 平成19年10月1日の輸血後検体でHCV-RNA陽性が確認された。

- ・ 患者検体及び供血者検体のHCVウイルスは GenotypeⅢ (2a) であった。

(4) 担当医の見解

- ・ 副作用の程度は非重篤であり本剤との関連性は可能性はある。現在、AST/ALTは正常であるがHCVコアタンパクが上昇しており、免疫抑制状態のためにAST/ALTの増加がなく、HCV抗体も陰性と考えられる。輸血によるHCV感染が疑われる。

(5) 併用薬等

- ・ 当該患者は、輸血と同時期にプレドニゾロン、シクロスポリン、抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリンを併用していた。

4 今後の対応

- (1) 患者と献血者とのHCVウイルスの相同性の確認を引き続き行う。
- (2) 当該患者のフォローアップを引き続き行う。
- (3) 血液の安全対策の推進
「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤で細菌感染が疑われた事例(4月9日報告)について

1 経緯

平成 19 年 4 月 9 日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液及び新鮮凍結血漿）による細菌感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

70 歳代の男性。原疾患は脳出血。平成 19 年 3 月 22 日及び 23 日に、輸血（赤血球濃厚液合計 12 単位 6 本及び新鮮凍結血漿合計 6 単位 3 本）を受ける。3 月 22 日、手術前における患者エンドトキシン 14pg/mL、手術中時輸血施行。3 月 23 日、輸血施行。患者エンドトキシン 227pg/mL、静脈血培養は陰性。3 月 24 日、患者エンドトキシン 160pg/mL、術後より全身状態悪化し死亡。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ・当該患者には、9 人の供血者から採血された赤血球濃厚液（6 人）及び新鮮凍結血漿（3 人）を輸血。
- ・当該製剤と同一供血者から製造された 9 本の原料血漿及び 3 本の赤血球製剤のうち、原料血漿 3 本は使用済み（6 本確保済み）、赤血球製剤は 3 本全て医療機関へ供給済み。
- ・当該製剤 9 本は、採血 10 日目（1 本）、8 日目（1 本）、7 日目（3 本）、6 日目（1 本）の照射濃厚赤血球-LR、採血 282 日目（1 本）、275 日目（2 本）の新鮮凍結血漿。

(2) 検体検査の状況

- ・日本赤十字社において、照射濃厚赤血球-LR と同一採血番号の血漿 6 本について、無菌試験はいずれも適合かつエンドトキシン試験はいずれも基準値以下。
- ・新鮮凍結血漿 3 本と同一採血番号の赤血球製剤（3 本）は医療機関で使用済み、血漿（3 本）は使用済みであり、細菌関連検査を実施できず。

(3) 患者検体の調査

- ・非溶血性副作用関連検査実施。抗血漿タンパク質抗体検査は陰性、血漿タンパク質欠損検査は欠損なし。また、院内にて実施の患者血液培養は陰性。

(4) 担当医の見解

術中にイベントが発生した可能性があったため輸血を原因として考えたが、術前よりエンドトキシンが上昇しており、手術前から敗血症性ショックの原因となる感染があった可能性があることから、敗血症性ショックの疑いと輸血血液との因果関係はなしと考える。また、血圧低下、アシドーシスについては免疫学的なものに関与した可能性は否定できないことから輸血血液との因果関係は不明である。

4 今後の対応

今後、遡及調査ガイドラインの徹底や細菌を除去・不活化する方策の検討を進め、輸血用血液製剤と細菌感染症の因果関係を明らかにする。

平成19年度感染症報告事例のまとめ（前回報告分以降）について

1 平成19年6月16日報告分から19年10月31日までに報告（新規及び追加）があった感染症報告（疑似事例を含む。供血者からの情報により開始した遡及調査によるものを除く。）は、輸血用血液製剤19件である。輸血用血液製剤の内訳は、

- (1) B型肝炎報告事例： 23
- (2) C型肝炎報告事例： 16
- (3) HIV感染報告例： 0
- (4) その他の感染症報告例： 16

2 B型肝炎報告事例

- (1) 輸血前後に感染症検査でHBs抗原（又はHBV-DNA）等が陽転した事例は20例（うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は5例）。
- (2) 血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性の事例は1例。
- (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例（劇症化例含む。）である。

3 C型肝炎報告事例

- (1) 輸血前後に抗体検査（又はHCV-RNA）等が陽転した事例は15例（うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は3例）。
- (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は1例。
- (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

4 HIV報告事例

- (1) 輸血前後に抗体検査等が陽転した事例は0例。
- (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
- (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

5 その他感染症報告事例

- (1) 細菌等感染報告事例において、血液製剤を提供した献血者の保管検体の無菌試験陽性事例は0例である。輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

※赤字は事前発送資料からの更新点。また、個票にて新出となる症例については、カラムに黄色を付した。

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発症及の 場合の供血者保管 検体(抗原、 抗体、NAT) (投与時点)	供血者発症及 の場合の供血 者の検査値	
輸血によるHBV感染報告例(疑い例を含む。)																										
供血者陽性事例																										
3-07120	A-07000107	2007/10/18	2007/10/31	人赤血球濃厚液-LR	男	80	消化器疾患、脳疾患、	B型肝炎	07/06	HBsAg(-) (07/03)	HBsAg(+) (07/10)	検体なし。	調査中	調査中		保管検体1本についてHBV-DNA(+)	献血者陽転情報 当該 07/06 HBV関連検査陰性 保管検体HBV-DNA(+) (遊及調査対象) 次回 07/09 HBe抗体検査陽性(陽転献血) 保管検体HBV-DNA(-)	2単位	-(献血者陽転事例のため)	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。		重篤	未回復			
陽転事例																										
3-07071	A-07000051	2007/6/21	2007/7/4	人血小坂濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液 人赤血球濃厚液-LR	女	10	筋腫瘍	B型肝炎	06/08-07/05 06/09-07/05	HBsAg(-) HBsAb(-) HBeAg(-) HBcAb(-) (06/07)	HBsAg(+) HBcAb(-) (07/06) HBsAg(+) HBeAg(+) HBeAb(-) HBV-DNA(+) (07/06)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBeAg(-) HBV-DNA(-) (06/07)	HBsAg(-) HBV-DNA(+) (07/03) HBV-DNA(+) (07/03-06)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体63本全てHBV-DNA(-)		340単位 28単位 30単位	25/63 (24人はHBV関連検査陰性、1人はHBe抗体のみ陽性で、当該献血時と同様であった。)	61本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は56本確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	原料血漿は4本使用済み、1本廃棄済み。	重篤	未回復				
3-07078	A-07000058	2007/7/2	2007/7/13	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	30	出血	B型肝炎	07/02	HBsAg(-) (06/06)	IgM-HBcAb(+) (07/05) HBV-DNA(+) HBeAg(-) HBeAb(+) (07/06) HBsAg(±) HBsAb(-) (07/06)	-	HBV-DNA(+) (07/06)	陽性(輸血後)	保管検体3本全部HBV-DNA(-)		5単位	0/3	3本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。	-	非重篤	軽快				
3-07080	A-07000060	2007/7/3	2007/7/13	人赤血球濃厚液-LR	男	80	消化器腫瘍	B型肝炎	07/02	HBsAg(-) (06/03) HBsAg(-) (06/12)	HBV-DNA(+) (07/05) HBsAg(-) (07/01) HBsAb(+) HBeAb(+) HBV-DNA(-) (07/02)	-	HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(+) HBV-DNA(-) (07/01) HBsAg(-) HBsAb(+) HBeAb(+) HBV-DNA(-) (07/02)	陰性(輸血前)	保管検体1本全部HBV-DNA(-)		2単位	0/1	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	非重篤	不明				
3-07083	A-07000063	2007/7/10	2007/7/23	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	70	消化器腫瘍	B型肝炎	06/11	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (06/11)	HBsAg(+) HBsAb(-) (07/03) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (07/07)	HBV-DNA(-) (06/11)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (07/07)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体2本全部HBV-DNA(-)		4単位	1/2	2本の原料血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。	非重篤	不明				

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	日赤投与前 検査	日赤投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	併用血 液製剤 等	備考	使用単位 数	供血者再 献血※	同一供血者製剤 確保※	同一供血者製剤 使用※	感染症 等転帰	転帰	供血者発 過及の場 合の供血 者保管検 体(抗原、 抗体、NAT) (投与時点)	供血者発 過及の場 合の供血 者の検査 値
3-07091	A-07000076	2007/8/3	2007/8/16	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	消化器出血	B型肝炎	07/02	HBsAg(-) HBsAb(-) (07/02)	HBsAg(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAb(+) HBcAb(-) HBcAb(+) HBV-DNA(+) IgM-HBcAb(+) (07/07)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (07/02)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (07/02)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (07/07)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体16本全部HBV-DNA(-)		30単位	2/16 (HBV関連検査(-))	10本の原料血漿、6本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。		非重篤	軽快		
3-07092	A-07000077	2007/8/3	2007/8/16	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	60	低栄養、浮腫、のう炎	B型肝炎	06/12	HBsAg(-) (06/12)	HBsAg(+) (07/05) IgM-HBcAb(+) (07/05)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (06/12)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (07/05)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体4本全部HBV-DNA(-)		8単位	2/4 (HBV関連検査(-))	4本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。		非重篤	不明			
3-07099	A-07000084	2007/8/21	2007/9/3	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	70	リンパ腫	B型肝炎	05/06-07 05/06-09	HBsAg(-) (04/03) (05/06)	HBsAg(-) (05/09) HBsAg(+) (07/07) (07/08)	-	HBsAb(+) HBcAb(+) (05/07)	-	保管検体8本全部HBV-DNA(-)		20単位 12単位	6/8 (HBV関連検査(-))	8本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿は医療機関へ供給済み。	重篤	回復			
3-07107	A-07000092	2007/9/6	2007/9/20	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	70	消化器潰瘍	B型肝炎	05/03	HBsAg(-) (05/03)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (07/08)	-	HBV-DNA(-) HBsAg(+w) HBsAb(-) HBcAb(+) (07/09)	陰性(輸血後)	保管検体2本全部HBV-DNA(-)		4単位	1/2 (HBV関連検査(-))	2本の原料血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。	非重篤	不明			
3-07112	A-07000099	2007/9/27	2007/10/11	白血球除去人赤血球浮遊液 白血球除去人赤血球浮遊液(放射線照射) 人血小板濃厚液 人血小板濃厚液(放射線照射) 新鮮凍結人血漿	女	70	多発性骨髄腫	B型肝炎	05/01-07 05/02-05 05/07 05/02-07 05/08	HBsAg(-) HBcAb(-) (05/01)	HBsAg(-) HBsAg(+) HBcAb(+) (06/08) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(+) (07/08)	-	-	-	保管検体47本全部HBV-DNA(-)		4単位 4単位 10単位 20単位 200単位	37/47 (HBV関連検査(-))	7本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿は全て医療機関へ供給済み。	非重篤	回復			
3-07114	A-07000101	2007/10/1	2007/10/15	人赤血球濃厚液-LR 人血小板濃厚液 人血小板濃厚液(放射線照射)	女	80	血液腫瘍	B型肝炎	07/06-09 07/06 07/07	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (07/05)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (07/09)	-	HBV-DNA(+) HBs抗原(+) HBs抗体(-) HBc抗体(+) (07/9/28)	陽性(輸血後)	保管検体25本全部HBV-DNA(-)		24単位 65単位 110単位	7/25 (HBV関連検査(-))	20本の原料血漿、5本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿はすべて確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。		非重篤	未回復			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発症及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発症及の場合の供血者の検査値	
3-07119	A-07000106	2007/10/17	2007/10/31	人血小板濃厚液 人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液-LR 洗浄人赤血球浮遊液	男	10	骨髓異形成症群	B型肝炎	07/01-07/07/05 07/02-07/07/01-04,06-07	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (06/07) HBsAg(+) HBcAb(-) (07/07) HBsAg(+) HBcAb(-) (07/09) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (07/10)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(+) (07/05) HBsAg(+) HBcAb(+) HBsAg(+) HBcAb(-) (06/11) HBsAg(-) HBsAb(-) (06/12)	調査中	調査中	調査中	保管検体160本についてHBV-NAT実施予定。	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	07/07臍帯血移植	1455単位 15単位 80単位 36単位	88/160 (HBV関連検査(-))	調査中	調査中	重篤	未回復			
3-07122	A-07000113	2007/10/25	2007/11/8	人血小板濃厚液(放射線照射) 人血小板濃厚液 人赤血球濃厚液-LR 新鮮凍結人血漿	女	30	腎疾患	B型肝炎	07/04	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (07/04)	HBsAg(-) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBcAb(+) HBsAg(+) HBcAb(-) IgM-HBcAb(+) (07/10)	調査中	調査中	調査中	保管検体10本についてHBV-NAT実施予定。		15単位 40単位 6単位 8単位	6/10(HBV関連検査(-))	7本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LR、4本の赤血球製剤を製造。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	原料血漿について使用の有無を調査中。赤血球製剤は全て医療機関へ供給済み。	重篤	未回復				
3-07124		2007/10/31		洗浄人赤血球浮遊液-LR 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人赤血球濃厚液-LR 人血小板濃厚液(放射線照射)	男	70	血液腫瘍	B型肝炎	07/07-08	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (07/05)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) IgM-HBcAb(-) (07/09) HBV-DNA(+) (07/10)	調査中	調査中	調査中	保管検体6本についてHBV-NAT実施予定。		2単位 4単位 2単位 20単位	調査中	調査中	調査中	重篤	軽快				
3-07125		2007/10/31		人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 新鮮凍結人血漿-LR 人血小板濃厚液(放射線照射)	男	50	心疾患	B型肝炎	07/08	HBsAg(-) (07/07)	HBsAg(+) HBsAb(-) (07/10)	調査中	調査中	調査中	保管検体14本についてHBV-NAT実施予定。		12単位 14単位 20単位	調査中	調査中	調査中	重篤	調査中				
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																										
3-07075	A-07000055	2007/6/25	2007/7/5	人赤血球濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人血小板濃厚液(放射線照射)	女	60	リンパ腫	B型肝炎	07/01 07/02-/06 07/01-/06	HBsAg(-) (06/10)	HBcAb(+) HBsAb(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAg(-) HBV-DNA(+) (07/06)	HBV-DNA(+) (07/01)	HBV-DNA(+) (07/06)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体39本全てHBV-DNA(-)		※調査をうけて、副作用・感染症と輸血血液との因果関係なしと考えるとの担当医の見解がえられた。	12単位 18単位 265単位	13/39 (12人はHBV関連検査陰性、1人はHBcAb陽性かつHBs抗体陽性で、当該献血時同様であった。)	37本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿、新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。		重篤	未回復	患者は07/06にリンパ腫にて死亡、剖検なし。死亡と輸血との因果関係なし(担当医の見解)。		
3-07079	A-07000059	2007/7/3	2007/7/13	人赤血球濃厚液	男	80	血液腫瘍	B型肝炎	05/10	HBsAg(-) (04/08) HBsAg(-) HBsAb(-) (05/09)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) (07/06)	HBV-DNA(+) (05/10)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) (07/07)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体1本全部HBV-DNA(-)		2単位	1/1	1本の原料血漿を製造。	原料血漿は使用済み。	非重篤	不明				

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発症及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発症及の場合の供血者の検査値		
3-07084	A-07000064	2007/7/12	2007/7/25	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	腎疾患	B型肝炎	07/04	HBsAg(-) (07/04)	HBsAg(+) HBsAb(-) (07/07) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) HBsAg(-) HBcAb(-) HBcAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (07/07)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (07/04)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (07/07)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体1本全部HBV-DNA(-)		※調査をうけて、副作用・感染症と輸血血液との因果関係なしと考えるとの担当医の見解がえられた。	2単位	0/1	1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。		非重篤	不明				
3-07093	A-07000078	2007/8/6	2007/8/16	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人血小板濃厚液(放射線照射)	女	50	多発性骨髄腫	B型肝炎	07/04~05 07/04~05	HBsAg(-) HBsAb(+) (07/01)	HBsAg(+) HBsAb(+) HBcAb(±) (07/07)	HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(-) HBV-DNA(+) (07/04)	HBsAg(+) HBsAb(+) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (07/07)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体10本全部HBV-DNA(-)		8単位 80単位	4/10 HBV関連検査(-)	7本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。		非重篤	未回復					
3-07103	A-07000088	2007/8/31	2007/9/13	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	70	腎疾患、肝疾患	B型肝炎	06/10	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (06/10)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBsAg(+) HBcAb(+) (07/07)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBcAb(-) (06/10)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (07/08)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体2本全部HBV-DNA(-)		4単位	1/2 (HBV関連検査(-))	2本の原料血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。	非重篤	軽快					
陽転未確認事例																											
3-07074	A-07000054	2007/6/22	2007/7/5	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	50	多発性骨髄腫	B型肝炎	06/02- 06/10	-	HBsAg(-) (06/03) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) HBsAg(+) HBcAb(-) HBcAb(+) HBcAb(+) (07/06)	輸血前検体なし	HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (07/06)	陽性(輸血後)	保管検体8本全部HBV-DNA(-)		90単位 2単位	7/8 (HBV関連検査陰性)	8本の原料血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。	非重篤	軽快					
3-07088	A-07000073	2007/7/26	2007/8/9	人赤血球濃厚液 人血小板濃厚液 人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	60	多発性骨髄腫	B型肝炎	03/04- 06/11 03/07- 06/12 03/07- 06/11	-	HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(-) (06/09) HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBcAb(-) (06/11) HBsAg(+) HBcAb(+) (06/11) HBsAg(+) HBcAb(+) (07/06) HBV-DNA(+) HBsAb(-) HBsAg(+) HBcAb(-) (07/07) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBcAb(-) (07/07)	-	HBV-DNA(-) (06/09) HBV-DNA(+) (06/11) HBsAg(+) HBcAb(+) (07/07)	陽性(輸血後)	保管検体23本全部HBV-DNA(-)		24単位 75単位 55単位	18/23 (HBV関連検査(-))	23本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は1本確保済み。	原料血漿は22本使用済み。新鮮凍結血漿は全て医療機関へ供給済み。供給済みの新鮮凍結血漿のうち1本は未使用であり回収済み。	非重篤	軽快					

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	献血者再献血※	同一献血者製剤確保※	同一献血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	献血者発症及の 場合の 献血者保管 検体(抗原、 抗体、NAT) (投与時点)	献血者発症及 の場合の 献血者の検査 値	
3-07089	A-07000074	2007/7/30	2007/8/9	人赤血球濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射) 人血小板濃厚液(放射線照射) 白血球除去赤血球浮遊液 洗浄人赤血球浮遊液	男	50	多発性骨髄腫	B型肝炎	05/05-11 05/07 05/06-06/03 06/03 06/03	-	HBV-DNA(-) (05/12) HBsAg(-) HBsAb(-) HBeAg(-) HBeAb(-) (06/09) HBcAb(-) (07/06) HBV-DNA(+) HBsAb(-) HBeAg(+) HBeAb(-) HBcAb(-) (07/07)	-	HBV-DNA(-) (06/02) HBV-DNA(-) (06/05) HBV-DNA(+) (07/07)	陽性(輸血後)	保管検体71本全部HBV-DNA(-)		骨髄移植ドナーの検体の調査:HBV-DNA(-)	42単位 2単位 445単位 8単位 2単位	60/71 (57人はHBV関連検査陰性、2人はHBs抗体のみ陽性、1人はHBc抗体陽性かつHBs抗体陽性で、当該献血時と同様であった)	71本の原料血漿、6本の新鮮凍結血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿は全て医療機関へ供給済み。	非重篤	未回復			
輸血によるHCV感染報告例(疑い例を含む。)																										
献血者陽性事例																										
3-07117	A-07000104	2007/10/9	2007/10/19	人血小板濃厚液(放射線照射) 人血小板濃厚液 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人赤血球濃厚液-LR	女	50	貧血	C型肝炎	07/06-09 07/06-09 07/08 07/06-09	HCV-RNA(-) (07/08) HCVコア抗原(-) (07/06)	HCV-RNA(+) (07/08) HCVコア抗原(+) (07/08) HCVコア抗原(+) (07/06) HCV-RNA(+) (07/10)	検体なし。	HCV-RNA(+) (07/10)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	53本HCV-RNA(-) 1本HCV-RNA(+)			200単位 140単位 6単位 36単位	12/54 (HCV関連検査(-))	42本の原料血漿、12本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。		非重篤	軽快			
陽転事例																										
3-07076	A-07000056	2007/6/28	2007/7/11	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	60	脳腫瘍	C型肝炎	06/08	HCV-Ab(-) (06/08)	HCV-Ab(-) (06/09) HCV-Ab(+) (07/02)	HCV-RNA(-) (06/08)	HCV-Ab(+) HCV-RNA(+) (07/06)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体2本全部HCV-RNA(-)			4単位	1/2 (HCV関連検査陰性)	2本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は1本確保済み。	原料血漿は1本使用済み。新鮮凍結血漿は医療機関へ供給済み。	重篤	軽快			
3-07081	A-07000061	2007/7/6	2007/7/20	人赤血球濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	肝疾患、腎不全	C型肝炎	06/11 07/03	HCV-Ab(-) (03/01) HCV-Ab(-) (06/11)	HCV-Ab(-) (07/01) HCV-Ab(+) (07/06) HCV-RNA(+): 定性 HCV-RNA(-): 定量 (07/06)	-	HCV-Ab(+) HCV-RNA(+) (07/07)	陽性(輸血後)	保管検体18本全部HCV-RNA(-)			4単位 30単位	2/18	8本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿、10本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は5本確保済み。新鮮凍結血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	原料血漿は3本使用済み。	重篤	未回復			
3-07086	A-07000067	2007/7/13	2007/7/26	人赤血球濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	胆嚢腫瘍	C型肝炎	06/10-12 07/02	HCVコア抗原(-) (06/07)	HCV-Ab(-) (06/11) HCV-Ab(-) (07/02) HCV-Ab(+) (07/07) HCV-Ab(+) (07/07)	-	HCV-RNA(+) (07/02) HCV-RNA(+) (07/07) HCV-Ab(+) (07/07)	陽性(輸血後)	保管検体10本全部HCV-RNA(-)		※本症例は、被疑薬7本で第一報を入手し、2007年7月13日にFAX報告を行いました。その後医療機関からの申し出により被疑薬3本が追加されました。(未完了報告へは記載済み。)	16単位 4単位	3/10	9本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は7本確保済み。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	原料血漿は2本使用済み。	非重篤	未回復			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発症及の 場合の 供血者保管 検体(抗原、 抗体、NAT) (投与時点)	供血者発症及の 場合の 供血者 の検査値
3-07097	A-07000082	2007/8/15	2007/8/28	人赤血球濃厚液-LR 新鮮凍結人血漿	男	60	心疾患	C型肝炎	07/03 07/03	HCV-Ab(-) (07/02) (07/03)	HCV-Ab(+) (07/07) HCV-RNA(+) Genotype 2a (07/08)	HCV-RNA(-) (07/03)	-	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体8本全部 HCV-RNA(-)			10単位 15単位	4/8 (HCV関連 検査(-))	-	-	非重篤	未回復		
3-07098	A-07000083	2007/8/20	2007/8/31	人赤血球濃厚液(放射線照射) 人血小板濃厚液(放射線照射)	男	50	脳疾患、 消化管出血	C型肝炎	06/09-10 06/09-10	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (06/09)	HCV-Ab(-) (07/01) HCV-RNA(+) HCVコア抗原(-) (07/02) HCV-Ab(+) (07/07) HCV-Ab(+) HCVコア抗原(-) (07/08) HCV-RNA(-) (07/08)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (06/09) HCV-RNA(-) HCV-Ab(+) (07/08)	-	陽性(輸血後)	保管検体9本全部 HCV-RNA(-)			14単位 20単位	6/9 (HCV関連 検査(-))	-	原料血漿は全て 使用済み。	非重篤	回復		
3-07100	A-07000085	2007/8/23	2007/9/3	人赤血球濃厚液-LR 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	60	心不全	C型肝炎	07/03 07/03	HCV-Ab(-) (06/10)	HCV-Ab(+) (07/07) HCV-RNA(+) HCV群別:グループ1 (07/08)	-	-	陽性(輸血後)	保管検体2本全部 HCV-RNA(-)			2単位 2単位	0/2	-	-	重篤	未回復		
3-07104	A-07000089	2007/9/3	2007/9/13	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 新鮮凍結人血漿	女	80	血液腫瘍	C型肝炎	07/05-06 07/05-06 07/05-06	HCVコア抗原(-) (07/05)	HCV-RNA(-) (07/06) HCV-RNA(+) (07/06) HCVコア抗原(+) (07/08)	-	-	陽性(輸血後)	保管検体29本全部 HCV-RNA(-)			100単位 6単位 32単位	14/29 (HCV関連 検査(-))	-	原料血漿1本は 使用済みで、新鮮凍結血漿、赤血球MAPは全て 医療機関へ供給済み。	重篤	未回復		
3-07108	A-07000095	2007/9/18	2007/9/28	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	70	リンパ腫	C型肝炎	07/07	HCV-Ab(-) (07/06)	HCVコア抗原(+) (07/09)	HCV-RNA(+) (07/07)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(-) (07/09)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体3本全部 HCV-RNA(-)		患者は07年9月19日、肝不全により死亡。調査結果を受けて担当医より「副作用・感染症と輸血血液との因果関係なしと考える。」との見解が得られた。	4単位	0/3	-	-	重篤	死亡		
3-07109	A-07000096	2007/9/19	2007/10/1	人赤血球濃厚液 人赤血球濃厚液-LR	男	80	骨髄異形成症候群	C型肝炎	07/01 07/02-05	HCV-Ab(-) (06/10) HCVコア抗原(-) (07/01)	HCV-Ab(+) (07/06) HCV-RNA(+) (07/09)	-	HCV-RNA(+) HCV-Ab(-) (07/02) HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (07/06)	陽性(輸血後)	保管検体9本について全部 HCV-RNA(-)			2単位 16単位	2/9 (HCV関連 検査(-))	-	原料血漿1本は 使用済み。	非重篤	回復		
3-07116	A-07000103	2007/10/4	2007/10/18	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	70	脳梗塞、 消化器疾患	C型肝炎	07/06-07	HCVコア抗原(-) (07/06)	HCV-Ab(-) (07/07) HCVコア抗原(+) (07/09)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (07/06)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (07/09)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体10本全部 HCV-RNA(-)			10単位	3/10 (HCV関連 検査(-))	-	7本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿はすべて確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	非重篤	不明		
3-07121	A-07000108	2007/10/23	2007/11/5	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	70	脳出血	C型肝炎	07/06	HCVコア抗原(-) (07/06)	HCV-Ab(-) (07/09) HCV-RNA(+) (07/09) HCV-Ab(+) (07/10)	検体なし。	調査中	調査中	保管検体4本についてHCV-NAT実施予定。			8単位	0/4	-	原料血漿について使用の有無を調査中	重篤	軽快		
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																									

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発症及の 場合の 保管理体(抗原、抗体、NAT) (投与時点)	供血者発症及の 場合の 保管理体(抗原、抗体、NAT) (投与時点)	
3-07073	A-07000053	2007/6/22	2007/7/5	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	80	肺炎、貧血	C型肝炎	07/03~/05	HCV-Ab(-) (07/01)	HCV-Ab(+) (07/06)	HCV-Ab: EIA法(+) PHA法(-) HCV-RNA(-) (07/03)	HCV-Ab: EIA法(+) PHA法(-) HCV-RNA(-) (07/06)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体6本全てHCV-RNA(-)			12単位	0/6	5本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿は確保済み。		非重篤	未回復			
3-07102	A-07000087	2007/8/29	2007/9/11	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	消化器出血(疑い)	C型肝炎	07/05~/06	HCV-Ab(-) (06/07) (07/05)	HCV-Ab(-) (07/06) HCV-Ab(+) (07/08)	-	HCV-RNA(-) HCV-Ab: EIA法(+), PHA法(-) (07/08)	陰性(輸血後)	保管検体3本全部HCV-RNA(-)			6単位	0/3	3本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。		重篤	未回復			
3-07110	A-07000097	2007/9/26	2007/10/9	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	肝疾患、肝癌	C型肝炎	07/03	HCVコア抗原(-) HCV-Ab(+) (07/03)	HCVコア抗原(+) (07/08) HCV-RNA(+) (07/09)	HCV-RNA(+) (07/03)	HCV-RNA(+) (07/09)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体3本全部HCV-RNA(-)			6単位	0/3	2本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。		非重篤	未回復			
陽転未確認事例																										
3-07111	A-07000098	2007/9/27	2007/10/11	新鮮凍結人血漿	男	40	消化器疾患	C型肝炎	07/01	検査値なし。	HCVコア抗原(-) HCV-Ab(-) (07/01) HCV-Ab(-) (07/04) HCV-RNA(+) (07/09)	HCV-RNA(-) (07/01)	検体なし。	陰性(輸血前)	保管検体2本全部HCV-RNA(-)	人血清アルブミン		4単位	2/2 (HCV関連検査(-))	2本の原料血漿、2本の赤血球製剤を製造。原料血漿は全て確保済み。	赤血球製剤は全て医療機関へ供給済み。	重篤	未回復			
輸血による細菌等感染報告例(疑い例を含む。)																										
3-07095	A-07000080	2007/8/9	2007/8/22	人赤血球濃厚液	男	70	骨髄異形成症候群	HTLV-1検査陽性	03/11-05/03	-	HTLV-1Ab EIA法(+) (05/12) (07/07) HTLV-1Ab WB法(+) (07/07) ※その後の院内遊及調査で、2005年検体でもHTLV-1Ab(+))を確認。	-	-	-	保管検体6本全部、HTLV-1抗体: PA法(-)、EIA法(-)、IF法(-)		※2007年8月22日の未完了報告時に調査中であった患者転帰が「未回復」であると判明したため、2007年9月6日に追加報告を行った。	6単位	0/6	6本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿は全て医療機関へ供給済み。	重篤	未回復			
3-07101	A-07000086	2007/8/28	2007/9/11	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	70	肝癌	HTLV-1検査陽性	07/03~/08	HTLV-1Ab(-) (07/03)	HTLV-1Ab(+) (07/08)	HTLV-1Ab: PA法(+), EIA法(+), IF法(+) (07/03)	HTLV-1Ab: PA法(+), EIA法(+), IF法(+) (07/08)	-	保管検体4本全部HTLV-1Ab: PA法(-)、EIA法(-)、IF法(-)		※調査結果を受けて、担当医より「副作用・感染症と輸血血液との因果関係なしと考える。輸血前検体を用いた日本赤十字社でのATLA抗体確認検査の結果、当院検査法の偽陰性であることがわかった。」との見解が得られました。	6単位	-	4本の新鮮凍結血漿-LRを製造。新鮮凍結血漿は全て確保済み。		非重篤	不明			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発症及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発症及の場合の供血者の検査値
3-07115	A-07000102	2007/10/4	2007/10/18	人血小板濃厚液(放射線照射)	男	50	血液腫痛	菌血症	07/09	菌血症疑いあり(07/09)	悪心、振戦 SaO2 93% ↓ 血圧 160/90 ↑ 体温39度 脈拍140/min ※院内にて(1)患者血培養→ Eubacterium sp 検出(2)投与中止の当該製剤を用いた細菌培養試験→陰性	—	—	非溶血性副作用関連検査実施。抗血漿タンパク質抗体検査。陰性。 血漿タンパク質欠損検査：欠損なし。抗HLA抗体検査：クラスII(+), クラスIII(-) (輸血血液はクラスIIとも(-))	—	投与中止の当該製剤(1本)で細菌培養試験を実施、陰性。	10単位	—	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	—	重篤	回復			
3-07082	A-07000062	2007/7/9	2007/7/20	洗浄人赤血球浮遊液-LR	女	70	血液疾患	細菌感染	07/07	—	発熱:38.5°C(投与4時間)	—	—	非溶血性副作用関連検査実施 ・抗血漿タンパク質抗体検査：陰性 ・血漿タンパク質欠損検査：欠損なし ※院内にて実施の患者血液培養は陰性。	—	同一採血番号の血漿(1本)で無菌試験を実施 無菌試験結果：適合	2単位	—	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	—	非重篤	回復			
3-07087	A-07000068	2007/7/17	2007/7/26	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	60	骨髄腫	細菌感染	07/07	—	輸血後体温上昇(40.7°C)	—	—	調査なし ※院内にて実施の患者血液培養より、 <i>Bacillus mycoides</i> を同定した。	(アルブミン) 同一採血番号の血漿(1本)で、 <i>Bacillus</i> 属に対する細菌培養試験を実施 結果、 <i>Bacillus mycoides</i> 属菌検出されず。	※検査結果を受けて、担当医より「注射針などの間与もあるかもしれないが、副作用・感染症と輸血血液との因果関係ありと考える。」との見解が得られました。	2単位	—	1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	—	重篤	軽快			
3-07096	A-07000081	2007/8/14	2007/8/28	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	90	心筋梗塞	細菌感染	07/08	—	体温37.4°C→38.5°C 血圧 150/60mmHg → 176/61mmHg 心拍数 75/min → 140/min 血液培養より Citrobacter freundii 検出(グラム陰性球菌培養陰性。)(07/08)	—	—	非溶血性副作用関連検査実施。 ・抗血漿タンパク質抗体検査：陰性 ・血漿タンパク質欠損検査：欠損なし。	投与中止の当該製剤で細菌培養試験を実施。 細菌培養試験結果：陰性	1単位	—	1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	—	重篤	回復				

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発症及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発症及の場合の供血者の検査値
3-07105	A-07000090	2007/9/5	2007/9/18	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	50	消化器腫瘍	細菌感染	07/09	-	体温 約37度 →約40度 血液培養より Klebsiella pneumoniae(グラム陰性菌)検出(07/09) Klebsiella pneumoniae、Pseudomonas fluorescens、Pseudomonas putidaを同定	-	-	調査なし。			※被疑薬:採血12日目の照射赤血球濃厚液-LR 調査結果を受けて担当医より「副作用・感染症と輸血血液との因果関係なし」と考える。血液培養(2セット)の結果で同一菌がK. pneumoniaeのため、起炎菌はKlebsiella pneumoniaeと考えられる。感染源は原病(骨盤内腫瘍)であった」という見解が得られた。	2単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿を確保済み。		重篤	軽快		
3-07106	A-07000091	2007/9/5	2007/9/20	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人血小板濃厚液(放射線照射)	男	70	呼吸器腫瘍、骨髄異形成症候群	細菌感染	07/08 07/08	-	発熱(39度~40度) 血液培養にてグラム陰性桿菌を検出。(Escherichia coliを同定。)	-	-	非溶血性副作用関連検査実施。抗血漿タンパク質抗体検査:陰性。血漿タンパク質欠損検査:欠損なし	同一採血番号の血漿(2本)でEscherichia coliに対する細菌培養試験を実施。検出されず。		※被疑薬:採血15日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本) 採血3日目の照射濃厚血小板(1本)	2単位 10単位	-	2本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。		重篤	回復 ※患者は07年9月4日、肺癌にて死亡、剖検なし。 ※死亡と本剤との関連性なし(担当医の見解)。		
3-07113	A-07000100	2007/10/1	2007/10/15	人血小板濃厚液(放射線照射)	女	50	多発性骨髄腫	細菌感染	07/09	-	発熱(36度→38.6度) アナフィラキシーショック 血圧102/70→66/- 脈拍80→122 ※患者血液培養は陰性	-	-	非溶血性副作用関連検査実施。抗血漿タンパク質抗体検査:陰性。血漿タンパク質欠損検査:欠損なし。	投与中止の当該製剤(1本)で細菌培養試験を実施。陰性。		※被疑薬:採血2日目の照射濃厚血小板	10単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。		非重篤	回復		
3-07118	A-07000105	2007/10/9	2007/10/19	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	消化器疾患	細菌感染	07/10	患者血培養によりStaphylococcus aureus、Pseudomonas aeruginosaを同定(07/08)	患者血培養によりStaphylococcus aureusを同定(07/10)			非溶血性関連検査実施予定。	投与中止の当該製剤(1本)で細菌培養試験を実施する予定。		※被疑薬:採血10日目の照射赤血球濃厚液-LR	2単位	-	調査中	調査中	重篤	軽快		
3-07123	A-07000114	2007/10/25	2007/11/8	人赤血球濃厚液-LR	男	50	消化器疾患 肝疾患	細菌感染	07/10	患者血培養によりStaphylococcus aureus、Pseudomonas aeruginosaを同定(07/09)	体温37℃→38℃ 輸血開始30分後悪寒出現。 院内にて患者血培養、投与中止の当該製剤を用いた血液培養を実施。結果はいずれも陰性。	-	-	-	投与中止の当該製剤(1本)で細菌培養を実施予定		※被疑薬:採血15日目の赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。		非重篤	軽快		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	日赤投与前 検査	日赤投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者個別 NAT	併用血 液製剤 等	備考	使用単位 数	供血者再 献血※	同一供血者製剤 確保※	同一供血者製剤 使用※	感染症 等転帰	転帰	供血者発 過及の場 合の供血 者保管 検体(抗原、 抗体、NAT) (投与時点)	供血者発 過及の場 合の供血 者の検査 値
3-07085	A-07000065	2007/7/13	2007/7/25	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	80	消化器腫瘍	細菌感染 血圧低下 意識レベルの低下	07/06	血圧133/59 体温36.4℃	血圧102/78 体温38.5℃	-	-	非溶血性副作用関連検査実施 ・抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 ・血漿タンパク質欠損検査:欠損なし ※院内にて患者血液培養は未実施。	同一採血番号の血漿(1本)で細菌培養試験を実施 結果:陰性		1単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	重篤	回復			
3-07094	A-07000079	2007/8/6	2007/8/16	人赤血球濃厚液-LR	女	~10	超低出生体重時	サイトメガロウイルス感染	07/07	-	CMV-DNA(+) (07/08) ※母親のCMV関連検査は未実施。	-	-	-	保管検体1本全部:IgM-CMV抗体(-)、IgG-CMV抗体(+)			-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	重篤	未回復			
3-07077	A-07000057	2007/7/2	2007/7/11	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	70	貧血	伝染性紅斑	07/06	Hb 3.1g/dL (07/06)	Hb 6.7g/dL 網状赤血球4.2% (07/06) Hb 4.4g/dL (07/06) Hb 4.3g/dL 網状赤血球3.1% (07/06) Hb 3.6g/dL 網状赤血球1.4% (07/06)	-	B19-DNA(-) B19Ab[IgM](-) B19Ab[IgG](+) (07/06)	陰性(輸血後)	保管検体5本についてヒトパルボウイルスB19関連検査実施。 保管検体4本: B19-DNA(-) B19Ab[IgM](-) B19Ab[IgG](+) 保管検体1本: B19-DNA(-) B19Ab[IgM](-) B19Ab[IgG](-)		10単位	ヒトパルボウイルスB19感染症例のためフォロセズ。	4本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	-	非重篤	回復			
3-07090	A-07000075	2007/8/4	2007/8/16	人血小板濃厚液(放射線照射)	女	40	血液腫瘍	敗血症	07/07	-	体温42℃ 血圧低下 血液培養よりStreptococcus mitis検出。 (07/07) ※院内にて実施の患者血液培養よりStreptococcus mitisを同定した。	-	-	非溶血性副作用関連検査実施 ・抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 ・血漿タンパク質欠損検査:欠損なし	投与中止の当該製剤で、Streptococcus mitisに対する細菌培養試験を実施。 結果: Streptococcus mitis検出されず。		10単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	重篤	軽快			
3-07072	A-07000052	2007/6/21	2007/7/4	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	80	消化器腫瘍	敗血症性ショック	07/06	-	-	-	-	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 ・血漿タンパク質欠損検査:欠損なし	同一採血番号の血漿(2本)で細菌培養試験を実施。 結果:肺炎桿菌検出されず。		4単位	-	2本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。	-	重篤	回復			

試行的 HEV20 プール NAT 実施状況について
(輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. 試行的 HEV20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内
調査期間:平成 17 年 1 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日

	献血者数	HEV-RNA 陽性	陽性率
H17. 1～H18. 2 ^{*1}	341, 174	45	1/7, 582
H18. 3～H19. 9 ^{*2}	425, 965	43	1/9, 906
合計	767, 139	88	1/8, 717

*1 北海道センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体も含む)

*2 血漿分画センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体は除く)

2. HEV-RNA 陽性献血者の内訳
別添

2. HEV-RNA陽性者の内訳

調査期間：2005年1月1日～2007年9月30日

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診該当※1	喫食歴調査		遡及対象供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
1	2005/01/04	32	M	57	-	-	+	無	不明レバー	生	無	
2	2005/02/07	38	F	11	-	-	+	無	ブタレバー	生	無	
3	2005/02/13	41	M	103	-	-	+	無	回答なし		無	
4	2005/03/25	65	F	17	-	-	+	無	回答なし		無	
5	2005/03/27	26	M	38	-	-	+	有	不明レバー(問診時)	生	有	赤血球製剤破損のため院内廃棄
6	2005/04/10	54	F	20	-	-	+	無	ウシ精肉	半生	無	
7	2005/04/15	59	F	16	-	-	+	無	ブタホルモン、シカ精肉	十分加熱	無	
8	2005/04/15	35	F	16	-	-	+	無	シカ精肉、ウシ精肉 ウシレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
9	2005/04/20	25	M	24	+	+	+	無	ウシレバー、ウシ精肉 ウシホルモン、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	感染なし
10	2005/04/28	22	M	44	-	-	+	無	回答なし		無	
11	2005/06/07	42	M	24	+	+	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
12	2005/06/22	51	M	52	-	-	+	無	回答なし		無	
13	2005/07/03	58	M	219	+	+	+	無	不明レバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
14	2005/07/05	22	M	23	+	-	+	無	回答なし		無	
15	2005/07/05	38	M	15	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生	無	
16	2005/07/13	24	M	19	-	-	+	無	ウシレバー	生	有	原疾患により死亡
17	2005/09/02	33	M	49	-	-	+	無	ウシ精肉 ヒツジ精肉 ブタホルモン、ブタ精肉	生 半生 十分加熱	無	
18	2005/09/01	29	F	100	+	+	+	無	ウシホルモン、ヒツジ精肉 ウシレバー、ウシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
19	2005/09/20	42	M	31	-	-	+	無	ブタホルモン、不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	HEV感染(H17.11.1 運営委員会報告済み)
20	2005/09/27	20	F	10	-	-	+	無	ウシ精肉、ブタホルモン、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
21	2005/10/21	41	M	12	-	-	+	無	回答なし		無	
22	2005/10/25	44	F	38	+	+	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
23	2005/11/07	30	F	21	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
24	2005/11/07	31	F	12	+	+	+	有	ブタレバー、ブタホルモン、ウシ精肉	十分加熱	無	
25	2005/11/20	28	M	47	+	+	+	有	ウシレバー、ウマ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	生 十分加熱	無	
26	2005/11/29	35	F	333	+	+	+	有	回答なし		無	
27	2005/12/13	42	M	30	-	-	+	有	ウシ精肉、ヒツジ精肉 不明レバー、ブタ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
28	2005/12/13	30	M	11	-	-	+	有	不明レバー	十分加熱	有	HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み)
29	2005/12/22	62	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	
30	2005/12/27	42	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診該当※1	喫食歴調査		遡及対象供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
31	2006/01/02	22	F	12	-	-	+	有	ウシレバー、ウシ精肉	十分加熱	無	
32	2006/01/06	68	M	23	-	-	+	無	ウシレバー、ブタホルモン、ヒツジ精肉	半生	無	
33	2006/01/13	36	M	42	-	-	+	無	ウマ精肉、不明レバー ウシ精肉、ヒツジ精肉 ウシレバー、ブタ精肉、ブタホルモン	生 半生 十分加熱	無	
34	2006/01/18	53	M	238	+	+	+	有	ウシレバー、ウシホルモン	十分加熱	無	
35	2006/01/13	31	M	43	-	-	+	有	不明レバー ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
36	2006/01/17	48	M	25	-	-	+	無	回答なし		無	
37	2006/01/25	52	M	25	-	-	+	無	不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	輸血後89日現在、HEVマーカーの陽転は見られず追跡調査終了
38	2006/01/30	39	F	22	-	-	+	無	回答なし		無	
39	2006/01/30	25	M	32	-	-	+	有	ウシ精肉、ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無	
40	2006/02/02	39	F	35	-	+	+	有	ウシレバー ウシレバー ヒツジ精肉	生 半生 十分加熱	無	
41	2006/02/07	57	M	13	-	-	+	無	不明	不明	無	
42	2006/02/07	40	F	172	+	+	+	無	ウシ精肉	十分加熱	無	
43	2006/02/17	39	M	28	-	-	+	無	ブタホルモン、ブタレバー、ブタガツ、ヒツジ精肉 イノシシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
44	2006/02/20	58	M	22	-	-	+	無	ヒツジ精肉	十分加熱	無	
45	2006/02/21	45	M	30	-	-	+	無	ウシ精肉 ブタ精肉、ブタレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
46	2006/03/01	46	F	15	-	-	+	無	回答なし		無	
47	2006/03/01	50	F	29	-	-	+	無	回答なし		無	
48	2006/03/02	54	M	47	+	+	+	無	ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
49	2006/03/27	40	F	12	-	-	+	無	回答なし		無	
50	2006/04/01	31	F	16	-	-	+	/	ヒツジ精肉	半生	無	
51	2006/04/04	30	F	14	-	-	+	/	ブタ精肉、不明レバー	十分加熱	無	
52	2006/04/12	38	M	45	+	+	+	/	ブタレバー、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
53	2006/04/18	21	M	26	-	-	+	/	ウシ精肉、ウシホルモン ウシ精肉、ウシホルモン	半生 十分加熱	無	
54	2006/04/22	28	M	14	+	+	+	/	回答なし		無	
55	2006/04/26	46	M	19	-	-	+	/	ブタレバー	半生	無	
56	2006/05/18	62	M	27	-	-	+	/	ヒツジレバー	十分加熱	無	
57	2006/07/07	17	M	33	-	-	+	/	回答なし		無	
58	2006/07/11	34	F	10	-	-	+	/	回答なし		無	
59	2006/07/12	21	F	27	-	-	+	/	回答なし		無	
60	2006/07/22	49	M	46	+	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
61	2006/08/01	62	M	18	-	-	+	/	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
62	2006/09/06	44	F	14	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
63	2006/09/29	68	M	15	-	-	+	/	ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
64	2006/10/21	29	M	22	-	-	+	/	不明		無	
65	2006/11/19	48	M	58	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
66	2006/11/23	54	M	18	-	-	+	/	回答なし		無	
67	2006/12/01	43	M	55	-	+	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
68	2006/12/04	60	M	46	+	+	+	/	ウシ精肉	十分加熱	無	
69	2006/12/04	47	M	40	+	+	+	/	ウシ精肉、ウシホルモン	十分加熱	無	
70	2007/03/01	33	M	41	-	-	+	/	ウシレバー	生	無	
71	2007/03/15	42	M	32	-	+	+	/	ブタレバー、ブタホルモン	半生	無	
72	2007/03/27	55	M	30	-	-	+	/	不明レバー	十分加熱	無	
73	2007/04/07	22	F	9	-	-	+	/	ユッケ ウシホルモン、ヒツジホルモン	生 十分加熱	無	
74	2007/05/16	47	F	15	-	-	+	/	ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
75	2007/05/18	40	F	27	+	+	+	/	ブタ生ハム(自家製)	半生	無	
76	2007/05/30	33	M	26	-	+	+	/	ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
77	2007/06/22	38	M	20	-	-	+	/	ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
78	2007/06/25	45	M	37	+	+	+	/	ブタ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
79	2007/06/27	37	M	18	-	-	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
80	2007/07/24	57	M	24	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
81	2007/07/29	37	M	48	-	-	+	/	不明レバー、ブタホルモン 不明レバー、ブタホルモン	十分加熱 半生	無	
82	2007/07/31	48	M	30	-	-	+	/	ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
83	2007/08/01	48	M	33	-	-	+	/	ブタ精肉 ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
84	2007/08/04	53	M	28	-	-	+	/	ヒツジ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
85	2007/08/26	50	M	60	-	-	+	/	ヒツジ精肉 ウシ精肉	十分加熱 生	無	
86	2007/09/05	41	M	29	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
87	2007/09/18	41	M	23	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉、ウシホルモン、ブタホルモン	半生	無	
88	2007/09/21	57	M	19	-	-	+	/	ブタホルモン	十分加熱	無	

※1: 問診喫食歴調査内容

05年 1月1日～05年10月31日: 「過去3ヶ月以内にブタ、シカ、イノシシあるいは動物種不明の生肉、生レバーの喫食歴」

05年11月1日～06年03月31日: 「過去3ヶ月以内に生肉(半生も含む)、レバー、ホルモン(動物種、焼き方を問わず)の喫食歴」、なお本調査は06年03月31日をもって終了

事務連絡
平成19年10月12日

日本赤十字社血液事業本部 御中

薬事・食品衛生審議会血液事業部会事務局
厚生労働省医薬食品局血液対策課

血液製剤に関する報告事項について

血液事業の推進に御努力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、標記につきましては、平成19年6月29日付け血安第220号にて貴社から報告を頂いたところですが、平成19年11月14日（水）に平成19年度第3回血液事業部会運営委員会が開催されますので、下記の事項について資料を作成いただき、平成19年10月18日（木）までに当事務局あて提出いただきますようお願いいたします。記の12については、平成19年7月25日開催平成19年度第2回血液事業部会運営委員会提出資料を更新の上、再度提出ください。

なお、資料の作成に当たっては、供血者、患者及び医療機関の名称並びにこれらの所在地又はこれらの事項が特定できる情報を記載しないよう、個人情報及び法人情報の保護に特段の御配慮をお願いします。

記

1. 平成15年9月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHIVの感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
2. 平成16年3月22日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
3. 平成16年11月26日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る9人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
4. 平成17年1月12日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

査結果。来訪がなければ、その旨。

5. 平成17年2月4日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
6. 平成17年6月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
7. 平成18年4月7日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る9人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
8. 平成18年6月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
9. 平成19年2月20日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
10. 平成18年2月15日報告、3月8日付けで追加報告された輸血用血液製剤でHCV（C型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
11. 平成19年4月9日付けで報告された輸血用血液製剤で細菌感染が疑われる事例について、その後の調査結果。
12. 試行的HEV20プールNATについて、その後の調査実施状況。

血 安 第 3 5 8 号
平成19年10月18日

厚生労働省医薬食品局血液対策課長 様

日本赤十字社
血液事業本部長

血液製剤に関する報告事項について（回答）

平成19年10月12日付事務連絡によりご依頼のありました標記の件については、下記により回答いたします。

記

1. 平成15年9月5日付けで報告された輸血用血液製剤でH I Vの感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る2人のその後の来訪なし。（8名中6名が来所、検査は全て陰性）
2. 平成16年3月22日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る5人のその後の来訪なし。（37名中32名が来所、検査は全て陰性）
3. 平成16年11月26日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る9人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る9人のその後の来訪なし。（48名中39名が来所、検査は全て陰性）
4. 平成17年1月12日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る4人のその後の来訪なし。（16名中12名が来所、検査は全て陰性）
5. 平成17年2月4日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る1人のその後の来訪なし。（追跡調査対象の4名中3名が来所、HBV-DNAは全て陰性。1名はHBc抗体がEIA法のみ陽性HI法陰性、その他の者は全て陰性）

6. 平成17年6月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る5人のその後の来訪なし。（20名中15名が来所、検査は全て陰性）
7. 平成18年4月7日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る9人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る9人のその後の来訪なし。（53名中44名が来所、HBV-DNAは全て陰性。
2名はHBc抗体及びHBs抗体陽性、1名はHBs抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）
8. 平成18年6月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る2人のその後の来訪なし。（29名中27名が来所、HBV-DNAは全て陰性。
2名はHBc抗体及びHBs抗体陽性、1名はHBs抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）
9. 平成19年2月20日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 1人がその後再採血に協力頂き、検査は陰性。残る1人の来訪なし。（3名中2名が来所、検査は全て陰性）
10. 平成18年2月15日報告、3月8日付けで追加報告された輸血用血液製剤でHCV（C型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 1人がその後献血に協力頂き、検査は陰性。残る3人の来訪なし。（81名中78名が来所、検査は全て陰性）
11. 平成19年4月9日付けで報告された輸血用血液製剤で細菌感染が疑われる事例について、その後の調査結果。
⇒ 調査なし
12. 試行的HEV20プールNATについて、その後の調査実施状況。
⇒ 別紙のとおり

試行的 HEV20 プール NAT 実施状況について

(輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. 試行的 HEV20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内

調査期間:平成 17 年 1 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日

	献血者数	HEV-RNA 陽性	陽性率
H17. 1～H18. 2 ^{*1}	341, 174	45	1/7, 582
H18. 3～H19. 9 ^{*2}	425, 965	43	1/9, 906
合計	767, 139	88	1/8, 717

*1 北海道センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体も含む)

*2 血漿分画センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体は除く)

2. HEV-RNA 陽性献血者の内訳

別添

2. HEV-RNA陽性者の内訳

調査期間：2005年1月1日～2007年9月30日

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
1	2005/01/04	32	M	57	-	-	+	無	不明レバー	生	無	
2	2005/02/07	38	F	11	-	-	+	無	ブタレバー	生	無	
3	2005/02/13	41	M	103	-	-	+	無	回答なし		無	
4	2005/03/25	65	F	17	-	-	+	無	回答なし		無	
5	2005/03/27	26	M	38	-	-	+	有	不明レバー(問診時)	生	有	赤血球製剤破損のため院内廃棄
6	2005/04/10	54	F	20	-	-	+	無	ウシ精肉	半生	無	
7	2005/04/15	59	F	16	-	-	+	無	ブタホルモン、シカ精肉	十分加熱	無	
8	2005/04/15	35	F	16	-	-	+	無	シカ精肉、ウシ精肉 ウシレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
9	2005/04/20	25	M	24	+	+	+	無	ウシレバー、ウシ精肉 ウシホルモン、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	感染なし
10	2005/04/28	22	M	44	-	-	+	無	回答なし		無	
11	2005/06/07	42	M	24	+	+	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
12	2005/06/22	51	M	52	-	-	+	無	回答なし		無	
13	2005/07/03	58	M	219	+	+	+	無	不明レバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
14	2005/07/05	22	M	23	+	-	+	無	回答なし		無	
15	2005/07/05	38	M	15	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生	無	
16	2005/07/13	24	M	19	-	-	+	無	ウシレバー	生	有	原疾患により死亡
17	2005/09/02	33	M	49	-	-	+	無	ウシ精肉 ヒツジ精肉 ブタホルモン、ブタ精肉	生 半生 十分加熱	無	
18	2005/09/01	29	F	100	+	+	+	無	ウシホルモン、ヒツジ精肉 ウシレバー、ウシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
19	2005/09/20	42	M	31	-	-	+	無	ブタホルモン、不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	HEV感染(H17.11.1 運営委員会報告済み)
20	2005/09/27	20	F	10	-	-	+	無	ウシ精肉、ブタホルモン、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
21	2005/10/21	41	M	12	-	-	+	無	回答なし		無	
22	2005/10/25	44	F	38	+	+	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
23	2005/11/07	30	F	21	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
24	2005/11/07	31	F	12	+	+	+	有	ブタレバー、ブタホルモン、ウシ精肉	十分加熱	無	
25	2005/11/20	28	M	47	+	+	+	有	ウシレバー、ウマ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	生 十分加熱	無	
26	2005/11/29	35	F	333	+	+	+	有	回答なし		無	
27	2005/12/13	42	M	30	-	-	+	有	ウシ精肉、ヒツジ精肉 不明レバー、ブタ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
28	2005/12/13	30	M	11	-	-	+	有	不明レバー	十分加熱	有	HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み)
29	2005/12/22	62	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	
30	2005/12/27	42	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
31	2006/01/02	22	F	12	-	-	+	有	ウシレバー、ウシ精肉	十分加熱	無	
32	2006/01/06	68	M	23	-	-	+	無	ウシレバー、ブタホルモン、ヒツジ精肉	半生	無	
33	2006/01/13	36	M	42	-	-	+	無	ウマ精肉、不明レバー ウシ精肉、ヒツジ精肉 ウシレバー、ブタ精肉、ブタホルモン	生 半生 十分加熱	無	
34	2006/01/18	53	M	238	+	+	+	有	ウシレバー、ウシホルモン	十分加熱	無	
35	2006/01/13	31	M	43	-	-	+	有	不明レバー ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
36	2006/01/17	48	M	25	-	-	+	無	回答なし		無	
37	2006/01/25	52	M	25	-	-	+	無	不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	輸血後89日現在、HEVマーカーの陽転は見られず追跡調査終了
38	2006/01/30	39	F	22	-	-	+	無	回答なし		無	
39	2006/01/30	25	M	32	-	-	+	有	ウシ精肉、ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無	
40	2006/02/02	39	F	35	-	+	+	有	ウシレバー ウシレバー ヒツジ精肉	生 半生 十分加熱	無	
41	2006/02/07	57	M	13	-	-	+	無	不明	不明	無	
42	2006/02/07	40	F	172	+	+	+	無	ウシ精肉	十分加熱	無	
43	2006/02/17	39	M	28	-	-	+	無	ブタホルモン、ブタレバー、ブタガツ、ヒツジ精肉 イノシシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
44	2006/02/20	58	M	22	-	-	+	無	ヒツジ精肉	十分加熱	無	
45	2006/02/21	45	M	30	-	-	+	無	ウシ精肉 ブタ精肉、ブタレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
46	2006/03/01	46	F	15	-	-	+	無	回答なし		無	
47	2006/03/01	50	F	29	-	-	+	無	回答なし		無	
48	2006/03/02	54	M	47	+	+	+	無	ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
49	2006/03/27	40	F	12	-	-	+	無	回答なし		無	
50	2006/04/01	31	F	16	-	-	+	/	ヒツジ精肉	半生	無	
51	2006/04/04	30	F	14	-	-	+	/	ブタ精肉、不明レバー	十分加熱	無	
52	2006/04/12	38	M	45	+	+	+	/	ブタレバー、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
53	2006/04/18	21	M	26	-	-	+	/	ウシ精肉、ウシホルモン ウシ精肉、ウシホルモン	半生 十分加熱	無	
54	2006/04/22	28	M	14	+	+	+	/	回答なし		無	
55	2006/04/26	46	M	19	-	-	+	/	ブタレバー	半生	無	
56	2006/05/18	62	M	27	-	-	+	/	ヒツジレバー	十分加熱	無	
57	2006/07/07	17	M	33	-	-	+	/	回答なし		無	
58	2006/07/11	34	F	10	-	-	+	/	回答なし		無	
59	2006/07/12	21	F	27	-	-	+	/	回答なし		無	
60	2006/07/22	49	M	46	+	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
61	2006/08/01	62	M	18	-	-	+	/	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
62	2006/09/06	44	F	14	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
63	2006/09/29	68	M	15	-	-	+	/	ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
64	2006/10/21	29	M	22	-	-	+	/	不明		無	
65	2006/11/19	48	M	58	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
66	2006/11/23	54	M	18	-	-	+	/	回答なし		無	
67	2006/12/01	43	M	55	-	+	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
68	2006/12/04	60	M	46	+	+	+	/	ウシ精肉	十分加熱	無	
69	2006/12/04	47	M	40	+	+	+	/	ウシ精肉、ウシホルモン	十分加熱	無	
70	2007/03/01	33	M	41	-	-	+	/	ウシレバー	生	無	
71	2007/03/15	42	M	32	-	+	+	/	ブタレバー、ブタホルモン	半生	無	
72	2007/03/27	55	M	30	-	-	+	/	不明レバー	十分加熱	無	
73	2007/04/07	22	F	9	-	-	+	/	ユッケ ウシホルモン、ヒツジホルモン	生 十分加熱	無	
74	2007/05/16	47	F	15	-	-	+	/	ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
75	2007/05/18	40	F	27	+	+	+	/	ブタ生ハム(自家製)	半生	無	
76	2007/05/30	33	M	26	-	+	+	/	ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
77	2007/06/22	38	M	20	-	-	+	/	ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
78	2007/06/25	45	M	37	+	+	+	/	ブタ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
79	2007/06/27	37	M	18	-	-	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
80	2007/07/24	57	M	24	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
81	2007/07/29	37	M	48	-	-	+	/	不明レバー、ブタホルモン 不明レバー、ブタホルモン	十分加熱 半生	無	
82	2007/07/31	48	M	30	-	-	+	/	ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
83	2007/08/01	48	M	33	-	-	+	/	ブタ精肉 ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
84	2007/08/04	53	M	28	-	-	+	/	ヒツジ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
85	2007/08/26	50	M	60	-	-	+	/	ヒツジ精肉 ウシ精肉	十分加熱 生	無	
86	2007/09/05	41	M	29	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
87	2007/09/18	41	M	23	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉、ウシホルモン、ブタホルモン	半生	無	
88	2007/09/21	57	M	19	-	-	+	/	ブタホルモン	十分加熱	無	

※1:問診喫食歴調査内容

05年 1月1日～05年10月31日:「過去3ヶ月以内にブタ、シカ、イノシシあるいは動物種不明の生肉、生レバーの喫食歴」

05年11月1日～06年03月31日:「過去3ヶ月以内に生肉(半生も含む)、レバー、ホルモン(動物種、焼き方を問わず)の喫食歴」、なお本調査は06年03月31日をもって終了

安全対策業務の流れ

